

平成 24 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：認知症高齢者グループホームつどい（ひまわりの丘棟）

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370901001		
法人名	医療法人 一秀会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム つどい ひまわりの丘棟		
所在地	岩手県一関市中里字石川瀬13-1		
自己評価作成日	平成 24年 12月 10日	評価結果市町村受理日	平成25年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0370901001-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0370901001-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 24 年 12 月 19 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

(ひまわりの丘棟)入居者との会話やお茶を楽しむ時間など、コミュニケーションを大切にしています。また、掃除などの家事と一緒にこなすなど、出来る機能をいかにさせるような対応を心がけています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新市街地の中心ショッピングセンターや各種飲食店等の店舗、事業所などが集中して立地する場所に位置している。隣接して集会所や住宅が多くあり、住民の往来、ショッピングセンターなどに入出入りする人・車などで一日中賑わいを見せている。理念である「その人らしい生活が継続されるようお手伝い」「ぬくもりのある家庭的な場の提供」「地域との交流を大切に」を実現すべく普段のケアに努めている。利用者は、日々、周辺散歩の際に挨拶を交わしたり、花や野菜のお裾分けなどを通して地域との交流が日増しに深まっている。家族からは職員が「困っていること、不安なこと、求めていることを良く聞いてくれる」など満足の声を多く得ている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : 認知症高齢者グループホームつどい (ひまわりの丘棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所、リビングに掲示し、職員が意識しながら介護業務を行っている。	開設当初に皆で作りに上げた理念を、毎日の申送りや毎月の職員会議の際に、確認し行事やケアの実施に努めている。今後はケアプランと理念の運動を模索しながら、さらなる理念の共有実践に取り組みたいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や挨拶、会話を交わしたり、花や野菜をいただくこともある。	利用者の高齢化等もあり頻繁な交流は少なくなる傾向だが、花や野菜などのお裾分けで来所する機会を活用し、交流を深めている。職員利用者とも自治会活動には積極的に参画して、その一員として認識されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別なことは現在行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況報告を行なうとともに、参加者より意見をいただいたり、情報交換の場となっている。	回を重ねるごとに意見や参加が多くなってきている。委員からは交通事故防止や徘徊対応などの意見やアドバイスを得るなど、有意義な場となっている。現在、委員が多く参加出来る会議の持ち方を模索中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話での問い合わせややり取りが多く、積極的とは言えない状況である。	普段の来所はあまりないが、定例の推進会議の場を活用して、居室の空き情報などを直接伝えたり、介護情報なども聞いている。その他必要な連絡については、電話を通して、随時行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行ない、職員ひとりひとりが理解を深めている。また、身体拘束は行っていない。	研修計画を組み全職員で基礎編・応用編と段階的に研修し、その方針や支援の実践に付いて意識の共有・維持・高揚を図り普段の支援にも気付きを職員会議で話題にして確認と共有に努めている。今後も拘束は「しない」ではなく「ない・ありえない」ことを基本に据えていきたいとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年制度について勉強会を行ない、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安・疑問点についての有無の確認を行なっている。また、わかりやすく説明するよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置しているが、活用されてはならず、運営に反映させるまでに至っていない。	意見箱を設置するとともに、面会訪問時や行事での訪問の際に、直接に意見や思いを聞くことにしているが、今までのところ運営に関するものは無い。アンケート実施等意見等が出しやすい環境づくりに努めたいとしている。	前回から、家族から、「お互いに顔合わせができる場や機会が欲しい」との意見が出されており、その対応について、引き続き、検討されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の会議では、職員からの運営に関する意見等は聞かれておらず、反映するまでに至っていない。	今年の5月から配食制度を取り入れたところ、食材(2から3日分)の仕分けが職員の業務にしわ寄せが出る等、現場の現状を代表者の理解を得て勤務時間の改善を提案する等、職員は意欲を持ちながら取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で月に一回学習会を行ない、その知識を仕事でいかせるように努めている。また、外部の研修参加も勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部で行なう研修会等への参加を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・ご家族に十分なモニタリングを行ない、お話をすすめる事で、不安や要望等を理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のお話を聴く機会を多く設け、困っていること、要望等についても理解するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族に十分なモニタリングを行ない、「その時」必要としている支援を見極め、対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、食器洗い等、のお手伝いを行なっていただいたり、昼食やお茶は一緒にいただくように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状況を報告し、必要に応じてケア方法を一緒に考えていただくこともある。電話などを利用し、安心が得られるように、関係が続くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事などで市内のドライブに出かける際は、入居者の自宅近くを通ることもある。	高齢等の要因から馴染みとの繋がりが年々少なくなってきたが、利用者ごとに誕生会を「好きなところ・馴染みの場所で家族と過ごす」など工夫をしながら、その関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルを2つに分け、入居者同士の関係がうまくいくように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了になった方のご家族からの相談に応じている。また、会った際などは、挨拶するとともに、様子を確認するように心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、表情や言動から気持ちを察して汲み取るよう努めている。意思疎通が困難な入居者の方には、ご家族からの情報を得て、センター方式を用いてケアに反映させている。	普段の生活は本人本位での対応である。今後もこれまでの生活歴などのほかセンター方式(私の気持ちシート)を活用し普段の声かけや寄り添い、表情や態度などに心しながらよりその思いに踏込んだケアに努めたいとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式に取り組み、ご本人、ご家族にお話を伺いながら、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、食事量・水分量・排泄・バイタルチェック表を記入し、入居者の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意見を聴きながら、介護計画を作成している。毎月の会議にて職員全員で意見を出し合いながら、介護計画に反映させている。	毎月、計画作成担当者が行うモニタリングを基に職員全員でカンファレンスを行ない3ヶ月ごとに計画の見直しをしている。今後は、モニタリングを居室担当に補助を依頼するなどによりチームで作るケアプランにしていきたいとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に日々の様子や実践結果を記録している。ケアチェック表を作成し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や買物など、職員対応で行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の宅配サービスや訪問美容室を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り入居前からのかかりつけ医に通院し、ご本人の状況やご家族と相談しながら受診を行なっている。	利用者・家族の希望する「かかりつけ医」の受診を継続的に支援している。主に職員の受診付き添いとなっているが、家族付添いの場合には、状態についてお伝えするとともに、必要に応じて状態観察記録を準備し渡している。普段、受診後の家族への報告は電話で支援している。医療連携も円滑に図れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はホーム内に在籍していない為、協働には至っていない。ご本人の日常の心身状況等は、受診時にかかりつけ医にお話している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、医療関係者やご家族と情報交換や相談を行ない、入居者が不安なく過ごしていただけるよう支援をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師が在籍していない為、医療行為が出来ない旨のお話をしている。重度化の場合、ホームで対応できるところまで支援を行なうと伝えているも、一部のご家族だけであり、また、ご家族の気持ちに変化が生じる場合もある為、定期的に確認が必要と感じている。	重度化や終末期への対応は、看護師の未在籍などを踏まえ、ホームとして対応できる内容を入居時に説明し理解を得ている。なお、入居後の時間経過に伴う状態変化に応じ家族と話し合いながら支援に努めている。	ホームでの重度化や終末期(看取り)の対応は、利用者家族、職員の大きな関心事である。今後における、ホームの取り組み・対応方針について、引き続き、法人等を含めて、検討されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えてのマニュアルを明確にし、常に事務所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行ない、避難訓練の確認も行なっている。	隣接する同法人営の事業所と一緒に定期的に訓練を行なっている。職員は消火訓練やAED研修などを受け、意識と技術を磨いている。避難訓練は地域の参加を得て行い、見守り・誘導などの協力についても了解を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々に合わせながら、会議で話し合い、その方に合った対応、声掛けを心がけている。	利用者の役割意識と特技(ゴミ捨て、干し柿作りなど)を見出し、それを活かした支援に心を配っている。声かけは、「さんづけ」など、利用者本人が心地良い呼びかけに留意するなど尊厳やプライバシーに細心の注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えがあった際は、話をゆっくり聴き、出来る限り希望に添えるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の状況に応じて、散歩やウッドデッキで日光浴をすることがある。リビングや自室で各々のペースで過ごされる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は髭剃り、女性は散髪を心がけ、必要に応じて越えがけや介助を行なっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳やテーブルふき、食器洗いなどのお手伝いを行なっていただくこともある。	本年5月から、本部からの配食による食事提供に変更されたため利用者が関わることのできる場面が少なくなった。今後は味噌汁の味見や下膳、食器洗いなどできることを見出し、関わり・楽しむ工夫をしていきたいとしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた形態の食事提供を行なっている。入居者ごとに食事量、水分量を毎日確認し記録している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に歯磨きの声掛け、介助を行なっている。義歯利用者には義歯洗浄剤を利用し、清潔に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の希望時や声がけにてトイレへ誘導している。また、夜間就寝時はその方によって、パットの確認・交換、又はトイレ誘導を行っている。	排泄の自立は生活意欲の自立という基本的考えに立ちオムツやパンツ使用に関わらず声がけ誘導トイレでの排泄を行なっている。失敗する事はほとんどなく、普段の心の安定と生活意欲の向上に繋がっていることが窺える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を参考に、便秘の予防に努めている。起床時に牛乳等、水分補給をいただいている。数名の方は、午前中にヨーグルト・バナナ等を召し上がっていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大体の時間は決まっているものの、入居者の体調や意向を確認しながら入浴支援を行っている。	概ね週3回を目安に入浴しており、回数や時間は希望を聞きながら、柔軟に対応している。鼻歌を歌って一番風呂、職員と一緒に談笑しながらなどそれぞれに楽しみながら入っている。菖蒲湯なども季節に応じて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調に配慮し、昼食後には午睡を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方箋にて内容および副作用の理解に努めている。また、申し送りにて症状の変化や服薬の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の興味や得意なことを見つけ、楽しみながら行なっていたりできるよう努めている。また、毎晩、お酒を楽しむ方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候にもよるが、ウッドデッキにて日光浴をしたり、ホーム付近を散歩して過ごされることもある。また、ドライブで出かけることもある。	普段はホーム内外の日光浴を始めショッピングセンター界隈の散歩をし気分転換をしている。遠近に関わらず四季折々のドライブにも対応している。希望を聞きながら、出来るだけ戸外へでかける機会を多くしたいとしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理できる方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの希望に応じ、電話や手紙などの支援を行なっている。毎月手紙を出す方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや絵、観葉植物、そしてコタツを置いて、生活感をだすよう工夫している。季節によって装飾等行なうこともある。	太陽の光が多く差し込む間取りや窓の配置で居心地のよい空間となっている。廊下の壁などには皆で一緒に作った切り絵・貼り絵などが飾られたり、ドライブなどの笑顔の写真が多く飾られ、つい笑みを誘われる。畳・コタツのコーナーも設けられ、暖かな雰囲気を実感する。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやコタツなどを配置し、自由にくつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人がご自宅で使っていた家具などを持ってきていただき、居心地よく過ごせるように工夫している。	備え付けはベッドとクローゼットなど、時計やラジオ、家族の写真などが壁に飾っている。家族の位牌を枕元に置ける方もおり、わが家わが部屋をそれぞれに作り上げている。窓からは、往来人や畑など四季の風景も見える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が安全にできるよう、共有スペースに手すりを設けている。また、居室のドアに個々の目印をつけ、自立した生活が出来るよう配慮している。		